

西南アジア研究会会報・その他

- イラン地震被災者救援資金として3,000円を本会より日本イラン協会に寄託したところ10月8日付を以て同協会会長谷正之氏より礼状来着（ジャバド・サドル駐日イラン大使の謝意伝達をも兼ねたもの）。○本会例会——第2回（日本オリエント学会関西支部会と共催）：10月20日午後3時半、於京大文学部陳列館第2教室、清水誠氏「アラビア文パピルス学入門」。第3回（本年度最終例会）：12月8日午後3時半、於京大楽友会館南室、山本茂氏「メソポタミアの古代都市」。
- 京都大学イラン・アフガニスタン・パキスタン学術調査隊（水野清一氏を隊長に、樋口隆康・林巳奈夫・西川幸治諸氏ほか）は7月8日京都発現地へ。帰国は明春早々の予定。なお樋口氏はその間8月27日～9月13日の“第6回先史学・原史学国際会議”（ローマ）に出席、引続きユネスコの Mutual Appreciation of Eastern and Western Cultural Values の課題で研究に従事、12月より再び調査隊に合流された。○「文明の十字路」（京都大学イラン、アフガニスタン、パキスタン調査の記録）は10月20日平凡社より出版。1959年7～12月の記録として織田武雄・宋尾至行・岩村忍・井本英一・吉田光邦・林巳奈夫・水野清一・藪内清・羽田明諸氏の共同執筆。○「インド学試論集」No. 3（京大印度・仏教学会）は6月25日発行。岩本裕・服部正明両氏の論文等登載。
- 日本オリエント学会（会長三笠宮殿下）第9回会員総会並びに講演会は6月24日天理大学図書館にて開催、大島清・勝藤猛・藤本勝次三氏の講演につづいて総会等々があった。また同学会第4回学術大会は11月10・11日慶応義塾大学西校舎で開催、初日はイスラム文化研究部会（島田襄平・佐藤圭四郎・藤本勝次・蒲生礼一諸氏の報告）と公開講演（松田寿男・ハンブルグ大学教授 A. von Gabain 両氏）、二日はシンポジウムのための報告（前嶋信次・杉勇・足利博氏・大島清四氏）後、丸川仁夫氏司会にて、“オリエントにおける神々の問題”をテーマにシンポジウムが行われ活況を呈した。なお同学会の季刊（改題）「オリエント」Vol. V, No. 1 は3月31日、No. 2 は9月30日に発行、小川英雄・岸本通夫・三笠宮ほか諸氏の論文その他登載。No. 3 並びに欧文「Orient」Ⅱも近刊の予定。

西南アジア研究会会員消息

- 清水誠氏（京大大学院文学研究科博士課程）はカイロ大学に約1年半留学、5月10日カイロ発パリで資料披閱後6月21日羽田着帰国された。○宮崎市定氏（京大文学部教授・本会副会長）はハーバード大学での講義を終え7月7日帰朝された。○岩本裕氏訳「法華経」上は7月16日出版（岩波文庫）。尚お同氏は東海大学を辞し8月上旬明石市に仮寓する。○服部正明氏（京大文学部助教授）はハーバード・燕京研究所の外人研究者招待計画により8月24日羽田発渡米、ハーバード大学にて約1年間研究に従事される予定。○藪内清氏（京大人文科学研究所教授）は第10回国際科学史会議（於北米コーネル大学その他）に出席のため8月下旬渡米、9月上旬帰国された。○岩村忍氏（京大人文科学研究所教授）訳「中央アジアの冒険」（ヴェンベリー著）は10月25日やしま書房から出版。○加藤一朗氏（関西大学助教授・本誌編集部）の「象形文字入門」は11月15日出版（中公新書）。○酒井敏明氏（京大大学院文学研究科博士課程）は京大火山部遠征隊（隊長農学部小野寺教授）に副隊長として参加8月13日横浜出航、インド・パンジャブ州クルー地方を踏査、登山および学術調査後インド各地を歴訪11月29日神戸に帰航された。○高島寛我氏（仏教大学教授）は10月7日羽田発ハワイ経由渡米、各地にて仏教東漸70年日米仏教文化会議に一行の諸氏と出席、さらに渡欧ローマより単身パリへ。パリにて国立図書館に梵本資料渉猟後12月5日羽田着帰国された。○大地原豊氏（京大文学部助教授）の Yutaka OJIHARA et L. RENOU : LA KĀŚIKĀ-VṚTTI (*adhyāya I, pāda 1*), Traduite et Commentée par—, 2^e Partie, Paris 1962 は同 1^{re} Partie, Paris 1961 につづいて上梓された。○中原与茂九郎氏（京大教養部教授・本会副会長）の停年退官（昭和 38 Ⅳ 16）記念事業会は12月1日付にて趣意書を発送、同教授の研究成果刊行資金援助その他を事業内容として、1口500円（1口以上、締切は本年末）の醸出を要請している。